

2025年3月31日

各位

株式会社富山第一銀行

株式会社白峰産業との  
「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結

株式会社富山第一銀行（頭取 野村 充）は、株式会社白峰産業（代表取締役 尾田 則男）を評価対象とした「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

本サービスを通じて、取引先の企業活動における環境・社会・経済の3つの側面に対して、インパクトを包括的に特定・分析し、ポジティブインパクトが期待できる活動と、ネガティブインパクトを緩和する活動を支援いたします。

今後も、お客さまに「寄り添う」銀行として、持続可能な社会の実現に向けた企業活動を通じた SDGs の達成に寄与することで、さらなる信認につなげます。

## 記

## 1. 商品概要

本商品は、企業活動が経済・環境・社会に与えるポジティブ並びにネガティブな影響をポジティブインパクト金融原則に基づき特定し、ポジティブインパクト（プラスの影響）を拡大、ネガティブインパクト（マイナスの影響）を緩和することで SDGs 達成を目指すファイナンスの取組です。当行は、インパクトに対する企業活動の影響・取組を包括的に分析・評価を行います。これらのインパクトに対する KPI（重要業績評価指標）についてお客さまとともに設定し、達成状況や取組状況について、定期的にモニタリングし、達成に向けて支援を行ってまいります。客観性を保つため当行が実施した評価について株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。

## 2. 融資概要

契約締結日	2025年3月31日
借入人	株式会社白峰産業
融資金額	50百万円
資金使途	運転資金
モニタリング期間	5年

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。  
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

## 3. 評価企業概要 株式会社白峰産業

代表者	代表取締役 尾田 則男
本社所在地	石川県白山市白峰二 164 番 1 地
事業内容	造林業、土木工事、造園業、林産物の加工及び販売
設立年月	1978年7月

## 4. SDGs 達成に向けた取組事例（詳細は評価書をご参照ください）

取組内容	事業活動を通じた脱炭素社会実現への貢献
インパクトの種類	環境面におけるポジティブインパクトの拡大 環境面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクト・カテゴリ	「資産効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理面積の拡大による CO2 吸収量の増加</li> <li>・森林クレジットの創出および販売の実現</li> <li>・森林整備・管理により伐採された木材の有効活用による循環型林業経営の促進</li> </ul>
毎年モニタリングする目標と KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2029 年度までに当社が管理する森林面積を 2,145ha とする（2024 年度実績：1,949ha）</li> <li>・2026 年度までに当社が管理する森林での CO2 吸収量をクレジットとして創出（目標：4,500t-CO2）するとともに、創出したクレジットを全て販売する（2024 年度実績なし） ※CO2 吸収量は J-クレジット制度における算定方法に基づく</li> <li>・2029 年度までに木材（原木・廃材・未利用材）の販売先を 5 先に増加させる（2024 年度実績：2 先）</li> </ul>



株式会社富山第一銀行

金沢支店長 畑田 和也

株式会社白峰産業

代表取締役 尾田 則男氏

【本件に関する問い合わせ先】

法人事業部：西林

TEL 076-461-3871

# ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業：株式会社白峰産業



白峰  
産業

SHIRAMINE  
SANGYO

2025年3月31日

株式会社富山第一銀行

# 目次

1.はじめに. . . . .	2
2.会社概要. . . . .	3
(1) 企業概要	
(2) 企業理念	
(3) バリューチェーン	
(4) セグメント構成	
(5) 組織図	
3.事業概要. . . . .	7
(1) 造林業	
(2) 土木工事	
(3) 造園業	
(4) 林産物の加工及び販売	
4.SDGs・ESG 活動. . . . .	12
(1) 森林クレジットの創出	
(2) 安定的な水量供給への寄与	
(3) QINO プロジェクトへの参画	
(4) ISO9001/14001/45001 の認証取得	
5.職場環境. . . . .	16
(1) 社内教育体制	
(2) 地域貢献活動	
6.インパクトの特定. . . . .	18
(1) インパクトレーダーによるマッピング	
(2) インパクトカテゴリーに対応する SDGs	
(3) 日本におけるインパクトニーズの確認	
(4) 白山市ゼロカーボンシティ宣言	
(5) インパクトの特定	
(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認	
7.KPI の設定. . . . .	24
8.管理体制とモニタリング . . . . .	26
(1) インパクトの管理体制	
(2) モニタリング方法	

# 1. はじめに

富山第一銀行は、株式会社白峰産業に対してポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施するにあたり、同社の企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響及びネガティブな影響）を分析・評価した。

分析・評価にあたっては、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」及び ESG 金融ハイレベル・パネル設置要領第 2 項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的な考え方」に則った上で、株式会社白峰産業の企業活動における包括的なインパクトを分析した。

富山第一銀行は、本評価書で特定されたポジティブ・インパクトの拡大とネガティブ・インパクトの抑制に向けた取り組みを支援するため、株式会社白峰産業に対し、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実行する。

資金調達者の名称	株式会社白峰産業
調達形態	証書貸付
契約期間（モニタリング期間）	2025 年 3 月 31 日から 5 年間
金額	50 百万円
資金使途	運転資金

## 2. 会社概要

### (1) 企業概要

社名	株式会社白峰産業
代表者	代表取締役 尾田 則男
所在地	石川県白山市白峰二 164 番 1 地
創業年月日	1965 年 4 月 1 日
設立年月日	1978 年 7 月 21 日
資本金	11.95 百万円
事業内容	造林業、土木工事、造園業、林産物の加工及び販売
売上高	215 百万円 (2025 年 1 月期)
従業員	12 名 (2025 年 1 月現在)
許認可	一般建設業 石川県知事許可 (般-4) 第 6149 号 土木工事業/とび・土工工事業/造園業
関連会社	株式会社タナオックス HD 所在地：石川県白山市白峰二 164 番 1 地 業 種：産業用機械賃貸業  竹腰永井建築株式会社 所在地：石川県白山市白峰二 164 番 1 地 業 種：土木工事業

## (2) 企業理念

# 森と人が共生する未来へ

霊峰白山の恵み豊かな麓に広がる白山の森。ここから生命の源である豊かな水が生まれ、都会に住む人々までもが恩恵を受けています。

私たちは林業を通じて、この大地の自然の力を最大限に活かしながら、森と人が共生する持続可能な未来を切り拓いていきます。世界ジオパークにも認定された手取川流域の水源の森を大切に守り育て、この自然の恵みを次の世代へ継承できる社会を実現します。

### 【ミッション】

#### 循環を紡ぎ継ぐ、新しい林業のかたちを

私たちが日々実践していること、それは白峰の森林機能を最大限に引き出す林業を追求することです。

伐採の際に出る廃材にも目を向け、付加価値を生み出すことで、循環型林業経営を実践しています。徹底して資源を有効活用することも私たちの強い信念です。

そして何より重要なのは、都市に住む人々をはじめ、子どもから大人まで、森づくりを通して自然の大切さを体感できる場を提供することです。人々が森から学び、森にも人の手が加わることで、持続可能な森林資源の活用が可能になるという考え方を広めていきます。

### 【目的・目標】

- 一、天然林に対する森林整備を提案し、森林の機能を高め動植物と共存共栄を図る。
- 一、山林での火災を起こさない、起こさせない。
- 一、山林での間伐材を有効活用する。
- 一、重大災害をゼロにする。
- 一、重機の修理費をゼロにする。

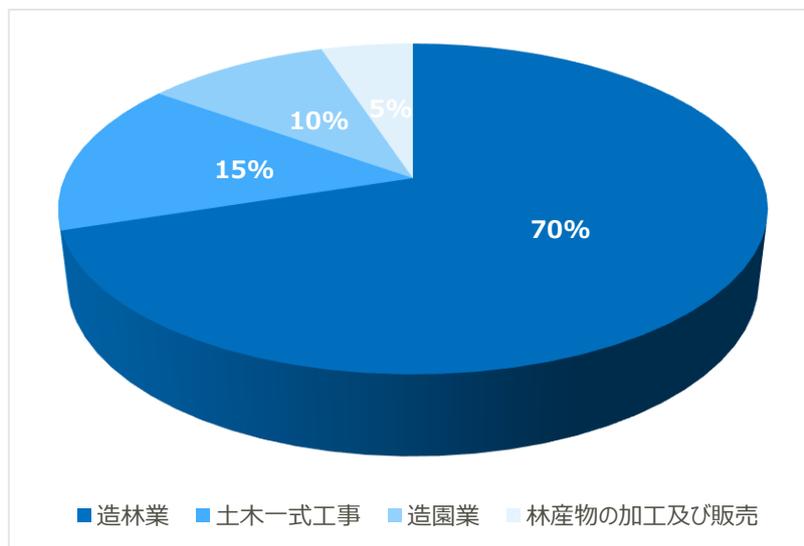


### (3) バリューチェーン

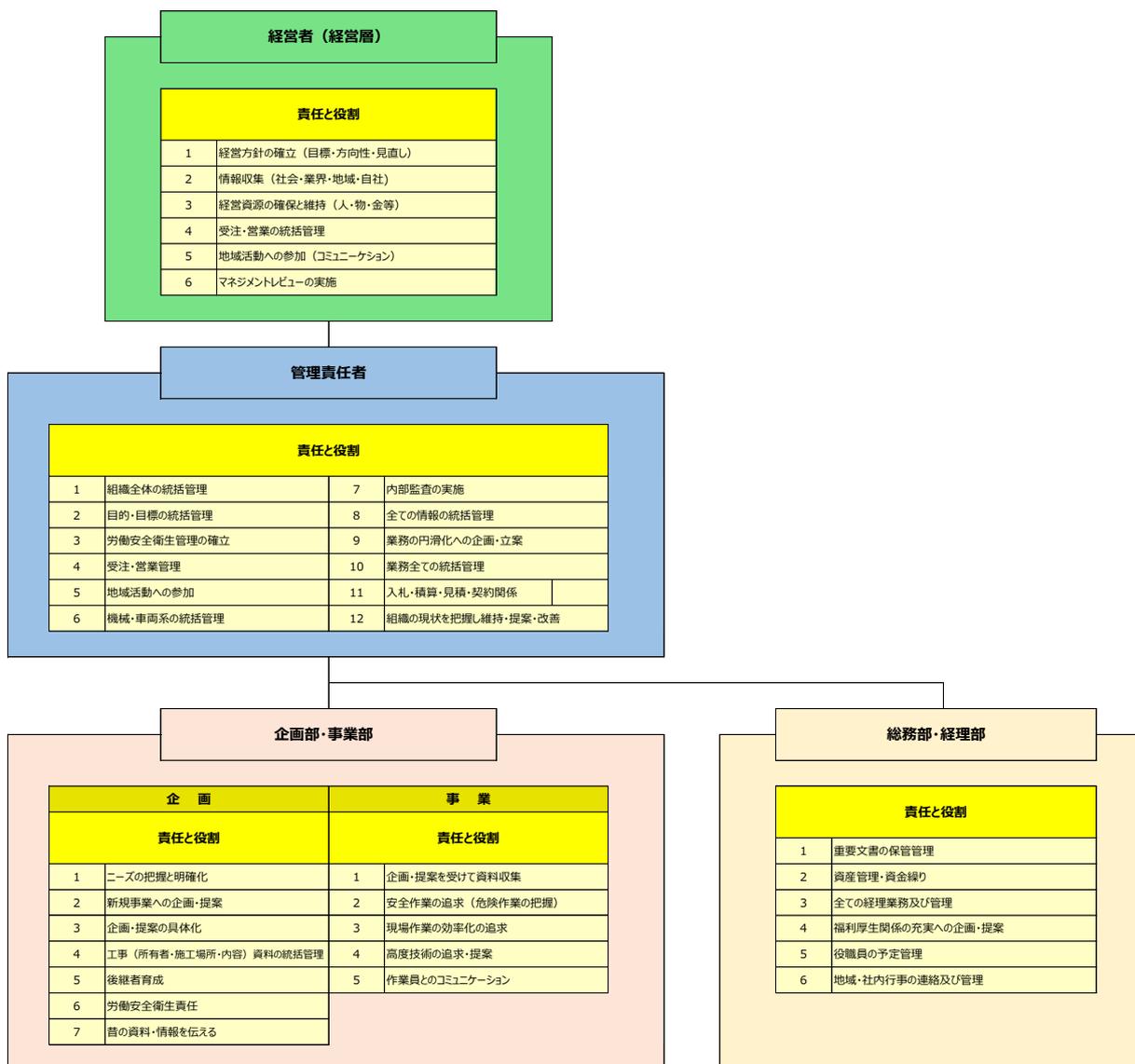


### (4) セグメント構成

セグメント	細目	割合
造林業	森林整備、森林管理、原木販売 など	70%
土木一式工事	林道工事、除草工事、除雪工事 など	15%
造園業	公園工事、庭園剪定 など	10%
林産物の加工及び販売	木炭、なめこ、薬木等の加工・販売	5%



(5) 組織図



### 3. 事業概要

#### (1) 造林業

森林整備工事、治山工事を核に、水源林造成工事、海岸林造成工事など、緑を育む幅広い造林業務を手掛ける。森林資源を守り育て、環境保全と災害防止に繋げるなど、持続可能な森づくりを実践している。



<伐倒>



<木寄せ>



<造材>



<集材>



<積込・運搬>



<荷下ろし>



<集積>



<積込・運送>

【IT とフィールドの融合】

ドローンによる上空からの精密な計測、AI/IoT を活用した森林データの高度な解析など、先端技術を取り入れると同時に、長年の経験に裏打ちされた現場での確かな知恵と技を融合することで、白峰の森林が本来持つ多面的機能を最大限に引き出している。



<ドローン調査>

【植林数】

種類	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ミズナラ（広葉樹）	11,370 本	12,600 本	9,510 本
スギ（針葉樹）	663 本	0 本	0 本
カラマツ（針葉樹）	0 本	0 本	5,860 本
合計	12,033 本	12,600 本	15,370 本

【丸太集荷量 ※集荷面積にて記載】

令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
4,300 m <sup>3</sup>	10,181 m <sup>3</sup>	8,500 m <sup>3</sup>

## (2) 土木工事

林道工事を主軸に、除草工事や除雪作業なども請け負う。森林施業や木材生産のための道路インフラ整備を行い、林業の発展に寄与している。地域に密着した事業展開が強みと言える。



<掘削>



<土嚢>



<林道整備>

### (3) 造園業

公園工事のほか、庭園における雪吊や剪定の手入れも対応。緑広がる空間づくりを通じて、憩いの場を作り出している。



< 樹木植樹 >



< 雪吊り >



< 雪囲い >



< 剪定 >



< 消毒 >



< 灯籠補修 >

#### (4) 林産物の加工及び販売

木炭、なめこ、薬木などの林産物に付加価値を加え販売。森の恵みを生かした特産品を地域に届け、環境と経済の好循環を目指している。



<薪>



<炭>



<なめこ>



<椎茸>



<クロモジ (アロマの原料) >



## 4. SDGs・ESG 活動

### (1) 森林クレジットの創出

事業者や自治体のカーボンニュートラル実現に向けたひとつの手段に、「環境価値」を取引できる形にしたカーボンクレジットや非化石証書などを活用して、自社では削減しきれない温室効果ガス排出量を埋め合わせる「カーボンオフセット」が挙げられる。

当社では、2024年7月に株式会社バイウィルと連携し、適切な森林管理によるJ-クレジット(※)創出・販売に向けた取り組みを開始。株式会社バイウィルの簡易算定の結果、認証対象となる8年間のCO2吸収量で35,000t-CO2程度を見込む。

当社が管理する森林からJ-クレジットを創出し、流通させることで、地域のカーボンニュートラルの実現に貢献していく。

(※) 省エネ設備の導入や再生エネルギーの活用等、事業者による脱炭素活動により得られたCO2等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証したもの。発行されたクレジットは他の企業等に売却することができ、購入者はカーボンオフセットに活用することができる。

Press Release  
報道関係者各位

**BYWILL**  
2024年7月19日  
株式会社バイウィル

**日本三名山・白山の懐、白峰地区の森を守る白峰産業とバイウィルが、森林クレジットの創出に向けて契約を締結**

森林経営によるJ-クレジットの創出を通じて、地域の森林保全と脱炭素に貢献

日本全国47都道府県のカーボンニュートラル実現を目指す株式会社バイウィル(本社:東京都中央区、代表取締役社長:下村 謙一郎、以下「バイウィル」)は、株式会社白峰産業(本社:石川県白山市、代表取締役:尾田 則男)と、適切な森林管理によるJ-クレジット(※1)創出・販売に向けた契約を締結しました。

なお、本契約は、株式会社北國銀行(本店:石川県金沢市、取締役頭取:杖村 修司、以下「北國銀行」)との顧客紹介契約に基づく紹介によるものです。

本契約により、バイウィルは白峰産業が管理する森林からのJ-クレジット創出について、申請手続きから販売先の探索までを一貫して受託・代行します。この取り組みを通じて、地域のカーボンニュートラル実現に貢献します。



白峰産業による森林管理の様子

出典：(株)バイウィル HP

## (2) 安定的な水量供給への寄与

当社は、日本三名山のひとつである霊峰・白山の麓、手取川ダムの上流で造林業等をおよそ半世紀営んでいる。木を育てて森を守り、それにより白峰地区の豊かな水源を創り上げている。手取川ダムは、石川県民の70%が生活用水として利用しており、安定的な水量供給の一助を担っている。



<手取川ダム>

出典：白山市公式観光サイト

### (3) QINO プロジェクトへの参画

驚くような木の新しい使いみちを発明する「QINO プロジェクト」の一員として、伐倒した木を使った製品や体験の開発を行い、生み出した経営資源で新たな森づくりを推進している。



#### (4) ISO9001/14001/45001 の認証取得

当社は、品質、環境、労働安全に関する ISO 認証を取得しており、SDGs や ESG にも関連する質の高い事業活動が展開されている。





## (2) 地域貢献活動

### 【木育授業】

白山市の小学5年生を対象とした木育授業や、地域内外の住民を森に招いて行う林業体験ワークショップなどを開催し、人と森をつなぐ機会を創出している。



<伐採見学>



<重機説明>



<重機体験>



<ノコギリ体験>

### 【地域行事への参画】

四季折々に彩られる白峰においては、自然の循環に寄り添いながら地域の絆を深める様々な祭りやボランティア、イベント等が行われており、当社ではこうした地域行事に積極的に参加・協賛している。



<雪だるま祭り>



<白山まつり>

## 6. インパクトの特定

### (1) インパクトレーダーによるマッピング

当社の事業内容の分析結果をもとに主要・関連業務を特定し、UNEP FIが推奨するインパクトマッピングを実施し、ポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。

当社の主要な業種については、国際産業標準分類に則り、「造林その他の林業活動（0210）」「伐採業（0220）」「非木材林産物採集業（0230）」を適用した。尚、川上、川下については、地方公共団体と民間企業が該当するが、対象は多岐に亘るため分析を割愛する。

分布図中の「◆◆」は重要な影響があるカテゴリー、「◆」は影響があるカテゴリーを示しており、当社の事業活動における「◆◆」「◆」の影響を検討する。

国際産業標準分類		当社の事業					
		0210		0220		0230	
		造林その他の林業活動		伐採業		非木材林産物採集業	
インパクトカテゴリー		Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
社会	水（入手）						
	食糧						
	住居			◆	◆		
	健康・衛生						
	教育						
	雇用	◆◆	◆	◆◆	◆	◆◆	◆
	エネルギー						
	移動手段						
	情報						
	文化・伝統						
	人格と人の安全保障				◆		
	正義・公正						
強固な制度・平和・安定							
環境	水（質）						
	大気						
	土壌				◆		
	生物多様性と生態系サービス		◆◆		◆◆		◆◆
	資源効率・安全性		◆		◆		◆
	気候	◆◆			◆◆		
	廃棄物		◆		◆		◆
経済	包括的で健全な経済			◆		◆	
	経済収束						

インパクトマッピングにおいて、当社事業のポジティブとして影響があると考えられるインパクトカテゴリーは「住居」「雇用」「気候」「**包括的で健全な経済**」が挙げられた。ネガティブとして影響があると考えられるカテゴリーとして「住居」「雇用」「**人格と人の安全保障**」「**土壌**」「**生態多様性と生態系サービス**」「**資源効率性・安全性**」「気候」「**廃棄物**」が挙げられた。尚、今回は当社事業と関連性の高いカテゴリーのみを分析対象とした。

### 【社会面】

当社は1965年の創業以来、森林機能を最大限に引き出す林業を追求してきた。当社の事業内容は、自然環境や地域の人々の生活に直結するものであり、業務を効率良くかつ安全に遂行するため、従業員のスキルアップに注力している。具体的には、森林施業プランナーをはじめとした林業に関する様々な資格取得の推奨および費用負担、当社独自の力量調査表の運用による従業員個々のスキルの見える化などが挙げられる。また、有給休暇取得率の向上や時間外労働の削減等、従業員のワークライフバランスに配慮した取り組みも積極的に展開している。

これらの取り組みは、従業員自身のモチベーション向上に繋がることから、「雇用」に関するポジティブインパクトの拡大およびネガティブインパクトの抑制に寄与している。

### 【環境面】

林業は、SDGsにおいて「気候変動に具体的な対策を（目標13）」「陸の豊かさを守ろう（目標15）」等の項目に密接に関連している。特に、日本は2050年までに温室効果ガスの排出量をゼロにする「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指しており、大気中の温室効果ガスの吸収源として、森林が大きな役割を果たすことが期待されている。

当社においては、事業を通じて、植林や下刈りによる森林機能の維持・拡大を図っており、前述した日本に求められる役割を担っていると言える。2024年7月には、適切な森林管理によるJ-クレジットの創出・販売に向けた取り組みを開始している。今後、当社が管理する森林からJ-クレジットを創出し、流通させることで、更なるカーボンニュートラルの貢献に繋がる。

植林や下刈りによる森林機能の維持・拡大に加え、森林整備・管理の際に伐採される木材については、原木の他、廃材・未利用材をベニヤや木質バイオマス等に加工して流通を図るなど、資源の有効活用を徹底する循環型林業経営を実施している。森林整備・管理の際に伐採される木材を燃料等として焼却する場合はCO<sub>2</sub>が発生するが、伐採後に植林や下刈り等により森林が適切に更新される場合は再び樹木に吸収されることから、カーボンニュートラルに寄与する。また、適切な間伐による森林管理や間伐材の有効利用は、CO<sub>2</sub>固定量増加に繋がり、当該木材の流通量拡大（木材販売先数の増加など）は環境面への配慮に資する取り組みと言える。

これらの取り組みは、「**気候**」に関するポジティブインパクトの拡大および、「**生物多様性と生態系サービス**」「**資源効率・安全性**」「**気候**」「**廃棄物**」のネガティブインパクトの抑制に寄与している。

#### 【その他】

当社が森林整備・管理を行う区域は、霊峰・白山の麓、手取川ダムの上流にある。手取川ダムで貯水されている水は、石川県民の70%程度の人々に生活用水として利用されており、当社事業が木を育てて森を守り、それにより豊かな水源を創り上げる一助を担っていることから、インパクトマッピングにおける該当外のカテゴリーではあるが、「**水（入手）**」に関するポジティブインパクトの拡大に寄与している。

## (2) インパクトカテゴリーに対応する SDGs



## (3) 日本におけるインパクトニーズの確認

持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）に掲載されている日本のダッシュボードによると、大きな課題が残る項目が「赤色」、重要な課題が残る項目が「橙色」、課題が残る項目が「黄色」、目標達成が「緑色」となる。

今回特定したインパクトと対応する SDGs のゴール 3 項目のうち、2 項目が大きな課題が残る、1 項目が重要な課題が残る項目である。日本に課題が残る項目が 3 項目中 3 項目全て該当していることから、日本における当社のインパクトは重要度が高いと判断する。

日本

OECD加盟国



戻る 概要 指標 ファクトシート 政策への取り組み



### SDGダッシュボードとトレンド

目標をクリックすると、詳細情報が表示されます。



ダッシュボード：●SDGsの達成 ●課題は残る ●大きな課題が残っています ●大きな課題が残っています ●利用できない情報

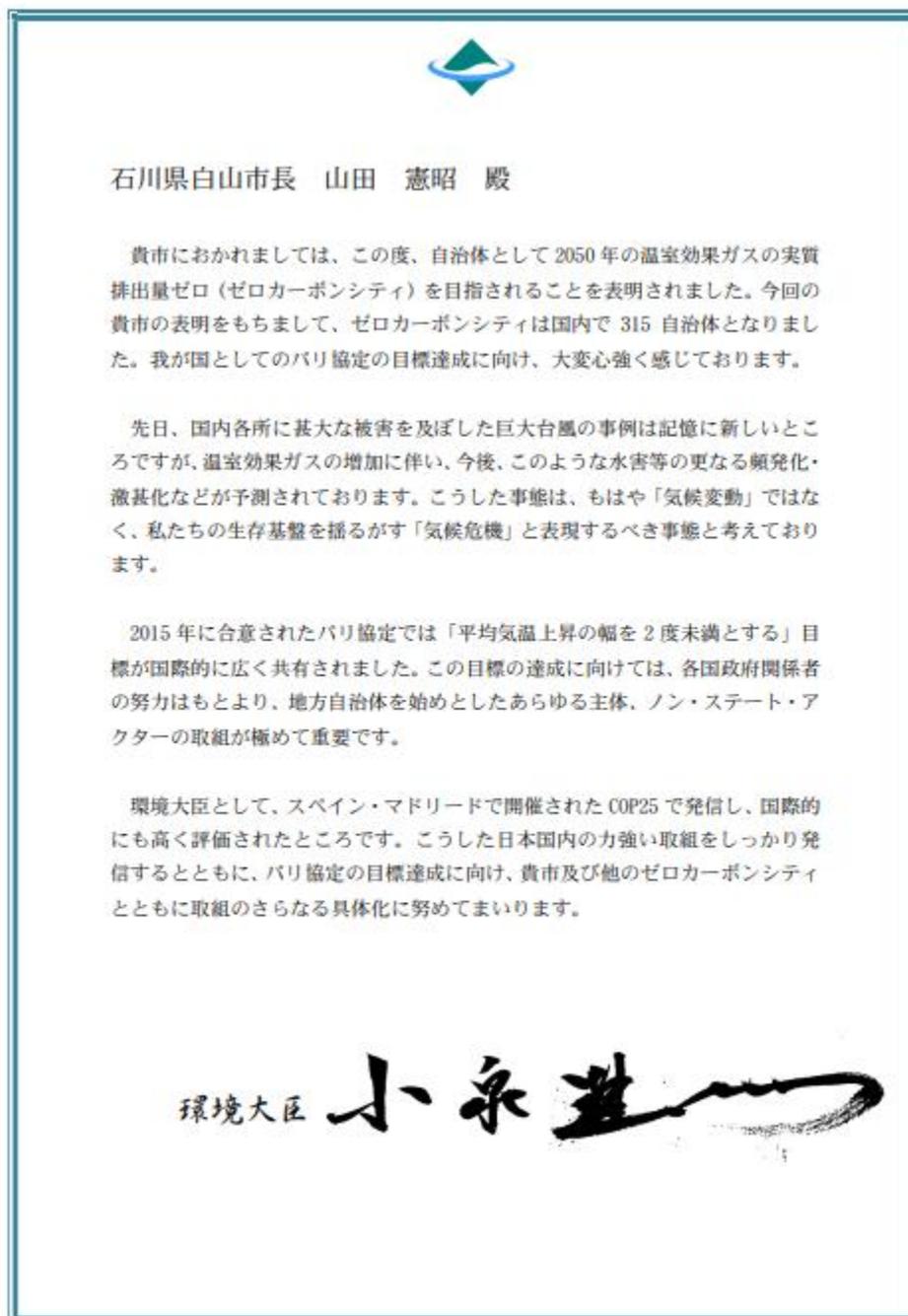
動向：↑SDGの達成を順調に進めているか、維持している ▲速度に改善している →停滞 ↓減少 \*\*トレンド情報がありません

出典：SDGs ダッシュボード

#### (4) 白山市ゼロカーボンシティ宣言

白山市では令和3年3月8日、令和3年3月会議で、市長が「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明した。

市民、事業所、行政が一丸となって脱炭素社会の実現の挑戦を進める中で、森林クレジットの創出等を行う当社の事業展開は、行政方針とも合致していると言える。



出典：白山市 HP

## (5) インパクトの特定

- 事業活動を通じた脱炭素社会実現への貢献
- 従業員がより働きがいを持てる職場環境の構築

## (6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認

事業分析やインパクトマッピング等を踏まえて、当社と特に関連性の高いインパクトを整理した。特定したインパクトと富山第一銀行のサステナビリティ方針の方向性が同じであることを確認する。

今回特定したインパクトは「事業活動を通じた脱炭素社会実現への貢献」「環境負荷軽減に向けた取り組みの強化」である。

富山第一銀行では、サステナビリティ方針のなかで、「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」「4.健全な企業経営」の4点を、サステナビリティを巡るマテリアリティ（重点課題）としている。

「事業活動を通じた脱炭素社会実現への貢献」では「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」という観点で、「従業員がより働きがいを持てる職場環境の構築」では「4.健全な企業経営」という観点で方向性が一致する。

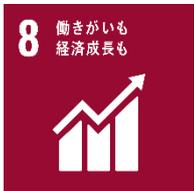
以上より、本ポジティブ・インパクト・ファイナンスに取り組むことで、環境問題や地域社会・経済を取り巻く課題に対して持続可能な社会の実現に貢献しうる資金の提供が可能となり、本ファイナンスを通じてSDGs 達成に向けた取り組みの支援を目指す。

## 7. KPI の設定

### ● 事業活動を通じた脱炭素社会実現への貢献

項目	内容
インパクトの種類	環境面におけるポジティブインパクトの拡大 環境面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリー	「資産効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連 SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理面積の拡大による CO2 吸収量の増加</li> <li>・森林クレジットの創出および販売の実現</li> <li>・森林整備・管理により伐採された木材の有効活用による循環型林業経営の促進</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2029 年度までに当社が管理する森林面積を 2,145ha とする (2024 年度実績：1,949ha)</li> <li>・2026 年度までに当社が管理する森林での CO2 吸収量をクレジットとして創出 (目標：4,500t-CO2) するとともに、創出したクレジットを全て販売する (2024 年度実績なし)</li> </ul> <p>※CO2 吸収量は J-クレジット制度における算定方法に基づく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2029 年度までに木材 (原木・廃材・未利用材) の販売先を 5 先に増加させる (2024 年度実績：2 先)</li> </ul>

● 従業員がより働きがいを持てる職場環境の構築

項目	内容
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連 SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得支援を通じた従業員のスキルアップ</li> <li>・健康経営の強化を通じた従業員の活力向上</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林施業プランナー（※）を毎年度1名ずつ増加させる（2024年度実績：0名） ※森林所有者に対して間伐等の施業の提案を行う専門家</li> <li>・2025年度中に白山市健康づくり宣言を行い、2026年度中に健康経営優良法人を取得、以降は認定を継続する</li> </ul>

## 8. 管理体制とモニタリング

### (1) インパクトの管理体制

当社は、代表取締役の尾田様を中心にサステナビリティに関する方針・施策の決定や、重要課題（マテリアリティ）の検討、推進、進捗状況のレビューなどを行っている。

本件におけるインパクトについては、専務取締役の尾田様が中心となり、管理・KPI 達成に向けた施策を実施する。

最高責任者	代表取締役 尾田 則男
管理責任者	専務取締役 尾田 弘好
管理部署	総務部・経理部

### (2) モニタリング方法

本ポジティブ・インパクト・ファイナンスで設定した KPI の達成及び進捗状況については、富山第一銀行と当社とで定期的に面談の場を設け共有する。本面談は少なくとも年1回実施するほか、日頃の情報交換や営業活動の場等を通じて実施する。

富山第一銀行からは、KPI 達成に必要な資金及びその他ノウハウの提供あるいは富山第一銀行の持つネットワークから外部資源とマッチングすることで、KPI 達成をサポートする。

モニタリング期間中に達成した KPI に関しては、達成後もその水準を維持していることを確認する。なお、経営環境の変化などにより、KPI を変更する必要がある場合は、富山第一銀行と当社が協議の上、再設定を検討する。

#### 注意事項・免責事項

1. 本評価書は、富山第一銀行が株式会社白峰産業から提供された情報や独自に収集した情報に基づく現時点での計画または状況に対する評価で、将来におけるポジティブな成果を保証するものではありません。
2. 富山第一銀行は、本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について、一切責任を負いません。

#### ● 本件に関するお問い合わせ先

株式会社富山第一銀行

法人事業部 コンサルティングチーム

〒930-8630

富山市西町5番1号 (TOYAMA キラリ7F)

TEL (076) 461-3871